

プロジェクト報告書

実習先 NPO 法人 木野環境

受講番号 29 龍谷大学 中山和香奈

目次

- 1、はじめに
- 2、活動記録
- 3、活動成果
- 4、活動を終えて

1、はじめに

インターンシッププログラム・プログレスコースに参加し、実習先 NPO 法人木野環境で私が活動期間中に活動してきたことを記す。イベント企画に取り組み、開催に至るまでの内容となっている。さらに、京都市内を離れた仕事現場の見学への参加についての説明も記録した。

2、活動記録

・ 究極的な目的の設定

子ども(小学生低学年)を対象に、身の回りにあるものを実際に制作し、それらに使用されている資源の存在に気づいてもらう。

・ 対象の設定

イベント企画作成にあたり、私自身が小学生低学年の頃の自然体験を振り返ることとなった。その思い出の印象は今でもなお強く、今度は私が子どもたちに楽しい体験を提供したいという願いから、対象は小学生低学年と設定した。

・ イベント企画の提出

発案した企画、コクヨ工場見学会をそれぞれ日時、場所、時間、そしてイベント内容やその企画のアウトプットを考え、提出した。

・ バスの手配

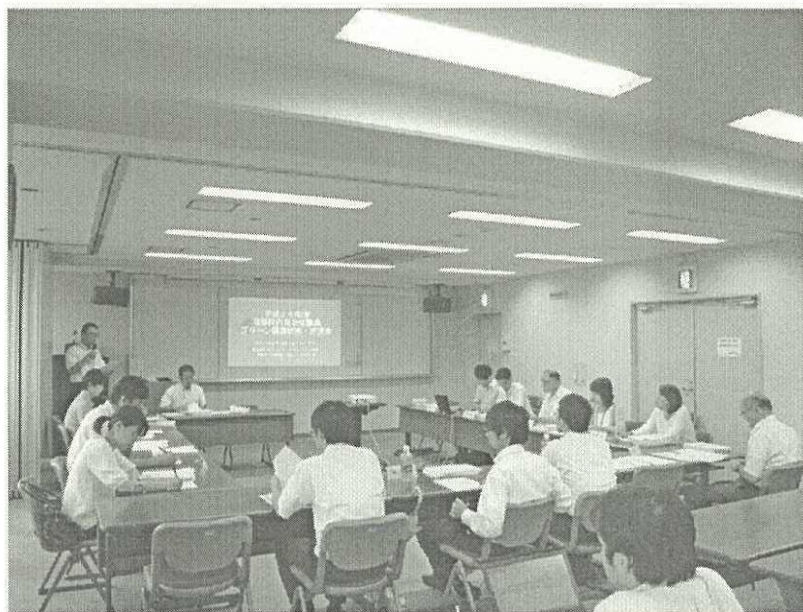
工場のある現地へは滋賀県であるため、交通手段が重要となった。京都発として貸切バスの予算見積書を六社へ申請した。しかし、返ってきたものは予算から大幅に超えていた。現地集合であっても往復の交通費を調べてみると一人二千元台となり、見学の参加者率を想定すると実現が難しいと判断に至った。

・新たなイベント企画

究極的な目的に立ち返り、企画を再構成した。家庭の身の回りにある資源は何かを考え、新聞紙にたどり着いた。そこから「京都新聞社内見学」のイベントの提案をした。工場見学の際に立ち止まった予算の件も、京都市内でなおかつ駅から数分ということもあり、実現の可能性が広がってきた。企画書の提出（次ページ）とともに、それに変わる企画も考えなければならない難しさも感じた。

・自治体の意見交換会への参加

京都市を離れ、京田辺市と福知山市へ行き、意見交換会の現場を見学した。京都府のさまざまな市町村の方が集まった。私は会場設営と進行の際のマイクの受け渡しなどを担当した。そのなかで、難しい法律や制度などの言葉が飛び交っていた。木野環境の事務局の方は市内にとどまらず、さまざまところへ出向き、企業や自治体へ向けてのコンサルトをしている仕事だと感じ、間近に見学することができた。



・企画書提出

中山和香奈

企画書

日時：11月22日(土曜日) 予約済み
13時30分～15時30分(約2時間程度)
(集合時間、13時 解散時間、17時頃)

場所：京都新聞社内
〒604-8577 京都府中京区烏丸通夷川上ル少将井町 239

アクセス：京都市営地下鉄丸太町駅下車
(集合場所、丸太町駅7番出口集合)

対象：小学生と保護者

募集：親子10組20名

参加費：無料(交通費は自己負担)



見学の内容：ビデオ学習(立ち入ることのできない工場内の様子がわかる)
編集局見学(見出しの決定など)
印刷工場見学(紙面への印刷工程や大量生産時の環境への配慮)
発送室見学(梱包工程の工夫発見と品質管理の必要性を理解できる)

<プロジェクトの究極的目標>

子どもたちを対象に新聞印刷工場見学を通して、会社の環境経営について理解してもらう機会を設ける。

<プロジェクト目標>

- ・小学生を対象とし、新聞生産過程の見学を通して新聞紙の背景にある資源の存在に気づく機会を与え、「読む」新聞にとどめず広い視野を養う。
- ・実際に従事している方から新聞社内では学べない生産の工夫や技術を聞き、普及させると同時に環境に配慮した新聞づくりとは何かを考える。(環境経営)

<プロジェクト成果・アウトプット>

- ・今後家庭で読まれたあと、自分たちができることはなにかを探る。
- ・実際に新聞づくり(ものづくり)をし、発表を通して子どもたちに環境経営をする体験してもらう。

<これからの活動>

- ・参加者募集のちらし広告作成(日時、場所、人数、所要時間、締切、連絡先)
- ・ちらし配布
- ・参加者リスト、名簿の作成
- ・受付完了のお知らせ(mail、FAX、TEL、郵便等)
- ・見学当日の日程スケジュール(しおり)の作成
- ・必要なスタッフの確保
- ・必要な道具の準備(カメラ、筆記用具など)
- ・見学後のアンケート、感想記入用のプリント作成
- ・見学後の振り返り、新聞づくりと発表、まとめ

・もうひとつの代替案

企画としては可能性は広がったものの、成果報告会が終えてからの日程しかおさえることができなかった。報告会までになにか形に残したいと思い、ほかのイベント企画へと挑戦した。イベント参加の募るお声かけというチャンスをつかみ、11月2日(日曜日)に京エコロジーセンターにて「紙フェス」の参加に至った。古紙や資源の活用をテーマに、私は新聞紙を用いて家庭でできる楽しい新聞遊びを子どもたちとワークショップをすることにした。

紙工作やミニ講座があるよ★

2014年
11月2日(日)
10:00~16:00

紙に関する様々な工作体験や暮らしに役立つ知識とエコが学べる、紙とエコのフェスティバル!

遊びと学びの紙の世界

紙フェス

参加無料

この事業は、京都府環境生活部、京都市環境局、京都市エコロジーセンターが共同で実施しています。

主催 京都府環境生活部、京都市環境局、京都市エコロジーセンター
お問い合わせ 京都市ごみ減量推進会議
TEL 075-647-3444 FAX 075-641-2971 <http://kyotogomien.jp/>
Eメール y612-0031 京都市伏見区南堀端ノ内町13番地 京エコロジーセンター活動共催館内
共催 京エコロジーセンター (京都市環境生活部活動センター)

会場 京エコロジーセンター (京都市環境生活部活動センター)

入館無料 この日は特別に、紙工作体験ができません。

駐車場は、京都市環境生活部活動センターに併設されています。

・イベントの工夫点

このワークショップの参加率を増やすため、そして「新聞遊びが楽しい」と感じた瞬間を記録し持ち帰ってもらうために、ダンボールを用い、「フォトフレームづくり」をした。二枚のダンボールを写真とはさみ、フレームのお絵かきの時間も設けた。



3、活動の成果

・紙フェスの開催

11月2日（日曜日） 京エコロジーセンターにて「紙フェス」に参加した。
午前10時から16時にかけてイベントをし、その6時間の間、終始子どもたちの集まりは絶えることはなかった。参加者は小学生低学年を想定していたが、幼稚園児がメインの参加がメインとなり、はさみの使い方もままならない子どもたちが多かった。

新聞紙でかぶと作りや花びらのステッキなどを教えながら新聞でのワークショップに取り掛かった。そのなかで、ロケットとその発射台を作った子、わなげをつくった子などアイデア満載のものづくりに非常に驚いた。

そのなかで、子どもたちへ簡単なアンケートを実施した。

- 1、新聞紙遊びは楽しいと感じているか。
- 2、新聞紙で遊んだことはあるか。（あればどこで、何を作ったかなど）
- 3、今回の新聞紙遊びで工夫したところ
- 4、周りのお友達がつくったものの評価、感想
- 5、新聞紙はリサイクルできると知っているか。（その後何になるか）
- 6、また新聞紙で遊びたいと感じたか。

1と6の感想に「楽しかった」や「また遊びたい」という回答が100%得られたことは、このイベントの成果ではないかと思う。

3に関して、「固定することが難しかった」など新聞紙の質にかんする回答が得られたので、新聞紙が一枚ではなく何枚も重なれば丈夫なものとなることへの気づきを提供することができた。



「紙フェス」イベントの様子

4、活動を終えて

長期に渡ってこのインターンシップに参加をし、多くの難問に直面した。企画の進め方をじっくり挑戦できたことは、これから私自身が行動していく軸や基盤を築きあげていく方法につながるのではないかと思う。そして、問題解決する方法、機転の聞いた仕事の取り組み方も重要な要素であり、社会から求められる人材なのではないかと気づいた。普段かかわりあうことのない社会人の方との交流はとても刺激的で、これから就職活動をするにあたり、彼らの仕事姿を追及していきたい。

以上